



おでん de 電車でGO!

ふちんかん

京滋味覚巡りの最終タームは「おでん de 電車」である。

「おでん de 電車」とは京阪電鉄大津鉄道部が平成22年から運行を開始した季節限定イベント列車である。一日に夜の一回のみ、そしておでん・弁当・3本のアルコールなどの飲み物が付いて3000円というリーズナブルな価格設定が受けて、予約を取るのも一苦労という人気の列車なのである。

今回、予約開始早々にWOOの優秀なスタッフが智恵と技巧を駆使して、予約に成功。ライバル誌の妨害工作を乗り越えて、2月23日に取材を敢行した。

スタートの浜大津駅は、一面2線のホームに、京津線、それに石山坂本線の列車がひっきりなしに発着するため、イベント列車を留め置くスペースがない。そのため狭いホーム上に、部活帰りの高校生たちにまじって、なにやら嬉しそうな顔つきの大人たちが列車を待つという独特の光景が見られる。



列車は発車数分前に到着、記念写真を撮る間ほどで、すぐの発車である。

車内は一般のロングシートの上にテーブルが設置されている。

テーブルの上には、しっかりとした保温容器に入ったおでんがセットされている。このおでん、具の一つ一つが大きくて種類も多い。「おでん de 電車」の名に恥じない内容である。さらに幕の内弁当もあり、こちらも普通のボリュームがあり、食べ物だけでもけっこうお腹は膨れる。



冬の京滋・味覚めぐり



加えておつまみと飲み物が3本つくわけで、これはなかなか鼓腹撃壤ものである。

車内は前述のようにテーブルがあり、自由には立ち歩けないようになっている。飲み物のおかわりやおつまみなどの追加はドア部に常駐するスタッフに注文する形になる。

列車は浜大津をスタートし、石山坂本線の終点・坂本へ向かう。大津の町中を抜けると琵琶湖に沿った高台を列車は走る。夜の帳の下りた中、時折見える明かりのない黒々とした空間が琵琶湖であろうと予測できる。しかし車窓に思いを馳せるなんてのは、ほんの一瞬である。車内での時間のほとんどは、熱々のおでんと酒に舌鼓をうち、ほろ酔い同士諸君との楽しい会話に費やされるのだ。



おでんが食べ終わる頃に坂本に到着。15分の停車の間にトイレ休憩&列車の撮影会である。

折り返して起点の石山寺駅へ。この時間は往路以上に短く感じる。気がつけばスタートの浜大津駅を再び通り抜け、JRを跨いだと思ったらもう石山寺駅である。ここでも15分のトイレ休憩&撮影会。



そして終点・浜大津へのラストランではスピードくじによる景品抽選会というイベントもあり、名残を惜しむ間すら無かったと感じるくらい、あっという間にゴールに着いてしまった。

にゴールに着いてしまった。

夢のような時間であったが、間違いなく満腹感と満足感が残る石山坂本線往復の旅であった。

